

トップに聞く!

丸東産業 株式会社

代表取締役社長 梶島 光政 氏

4-9p

「お客様第一主義」を実践する
パッケージ創造企業として
人々の豊かな生活に貢献する。



株式会社 お菓子の香梅

代表取締役社長 副島 健史 氏

10-15p

「くつろぎのごちそう」を皆様へ
これからも美味しい
お菓子をつくり続ける



株式会社 橋本商会

代表取締役社長 橋本 博文 氏

16-21p

“より高く” “正直は最良の施策なり”
変わらぬ理念を守りながら、
次代の技術情報商社へと進化を目指す





トップ
に聞く！

「お客様第一主義」を実践する
パッケージ創造企業として
人々の豊かな生活に貢献する。

丸東産業 株式会社
代表取締役社長

花島 光政氏

取引店／福岡銀行 本店営業部



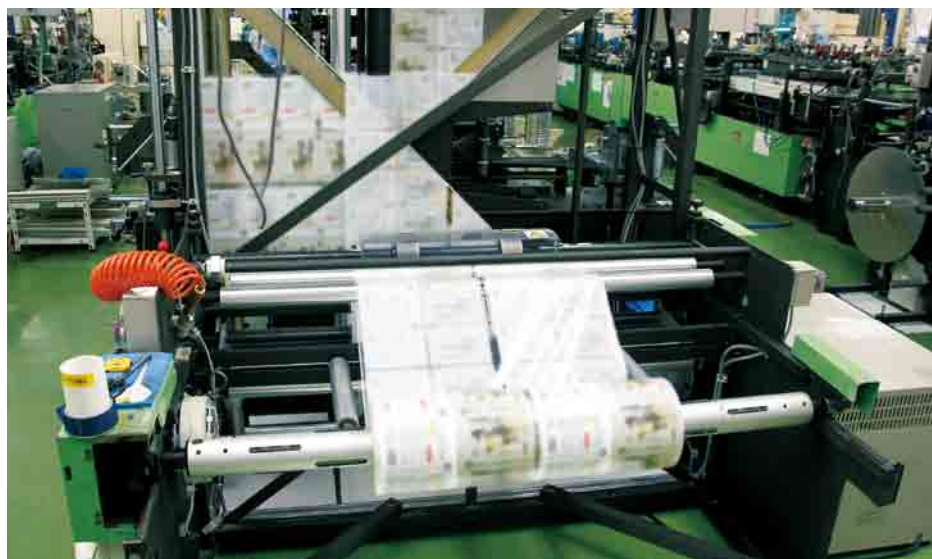


▲当社エントランスにて(左から谷頭取、梶島社長)

「セロファン丸東」から 「包装の丸東」としての 地位を確立し発展

当社は、創業者である原口信夫が東京でセロファンと出会ったことをきっかけに、1939年（昭和14年）、福岡市住吉（現福岡市博多区住吉）に丸東商會を開設し、セロファン網、セロファン紐、ガラス紡紐の販売を開始したことが歴史の幕開けとなりました。

47年（昭和22年）に包装用品の販売を目的とした株式会社丸東商會を設立し、48年（昭和23年）には本社を福岡市博多区祇園町に移転。また、57年（昭和32年）に貿易部（現国際部）を設置し、海外との取引にも動き始めました。そして61年（昭和36年）、単体（ポリエチレン）フィルムの製造を手掛けていた丸東工業株式会社を吸収合併するとともに、商号を丸東産業株式会社に変更。更に同年、福岡市東区に和白工場を新設し、



▲製袋機



▲印刷で使用するシリンダー



▲押し出しラミネートで使用するポリエチレン原料



▲当社製品を使用した商品



▲当社製品を使用した海外商品

単体（ポリエチレン）・複合（ラミネート）フィルムの製造、印刷、製袋の一貫した生産を本格的に開始しました。

その後の主だった歴史を振り返ると、82年（昭和57年）の香港包装器材中心有限公司への資本参加、94年（平成6年）の福岡証券取引所への株式上場、97年（平成9年）の福岡工場新設、99年（平成11年）の福岡県小郡市への本社移転、2001年（平成13年）のコージェネレーションシステム稼働、04年（平成16年）の製版設備増強等が挙げられます。特に、フィルム印刷に必要なシリンダー製造の新鋭設備を04年（平成16年）に投入したことで、生産の効率化が実現したことは大きな転機になりました。

更に当社は、国際標準規格の取得にも着手。08年（平成20年）に品質マネジメントシステムISO9001を取得し、11年（平成23年）には、環境マネジメントシステムISO14001を

丸東産業 株式会社

取得しています。また、社会的な関心が高い環境への対応も図り、09年(平成21年)に約4億円を投じて揮発性有機化合物(VOC)の排出量を削減するVOC回収設備を構築し稼働しています。

一貫生産体制、高付加価値製品、フンストップサービス等を強みに事業展開

創業以来、食品、医薬品、化粧品、トイレタリー用品、工業用品等あらゆる分野のパッケージの製造販売とパッケージ関連商品の販売を行っている当社ですが、その強みの一つに、デザイン・商品企画から製袋まで一貫した生産体制を整えていることが挙げられます。お客様との綿密な打ち合わせを行う「営業」に始まり、売れる商品づくりのためにデザイン提案や商品企画のお手伝いをする「デザイン企画」、そしてあらゆる袋形態のご要望に対応する「製袋」



▲製袋工程の視察風景



▲印刷機



▲スリット工程の視察風景



▲ドライラミネート工程の視察風景

まで、厳重な工程管理と検査体制を基にした一貫生産体制を構築しており、お客様にご満足頂ける品質の提供に繋がっています。特に商品企画、デザイン企画に関しては、全国の営業所網を活用し、最新のトレンドを集約した提案で、多くのお客様のお役に立てると考えております。

次に、開発した多種多様な製品も自慢です。中でも「直進くん」「クリスタルノンPF」「マルトップMLフィルム」は当社の重点製品に定めています。「直進くん」は、袋を手で真っ直ぐに切って開封出来、中身が飛び散る心配がない高付加価値商品です。「クリスタルノンPF」は、滑り性能を向上させたノンパウダーフィルムです。通常、フィルムへ液体等を高速で充填する工程では、装置へ滑らかにフィルムを送り出すための粉が必要でしたが、粉が無くて滑る画期的なフィルムとして開発。粉が異物に間違えられること

や、充填機に粉が溜まって清掃に手がかかることも無くなりました。「マルトップMLフィルム」は、高速充填性を有し、強度や耐熱性にも優れた万能フィルムです。これらは、いずれも高い機能を有している製品としてお客様にご好評頂いております。

また当社は商社機能を有しており、パッケージ関連全てのワンストップサービスが可能なのも特長です。袋の製造ひとつをとっても、周辺には、トレー、箱、コンテナ、段ボール、充填機、梱包機械、検査機等様々な「モノ」が必要です。当社はメーカー数百社との提携関係を基に、これらの殆ど^{ほとんど}のモノを仕入れてお客様に提供することを可能としており、パッケージに関連する分野であれば、何でも対応出来る自信があります。実際に衣料メーカー様から自動のピッキングライン自体を受注したこともあります。

最後に、当社は香港に設立30年



▲当社社屋・工場



▲チャック付け工程の視察風景

を迎える販売商社を有していることも強みの一つです。国内のお客様から香港でのビジネスマッチングを依頼される等、存在感が増してきています。現在は当社国際部との両輪でアジア各地、オーストラリア、中東地域等へ事業を展開しており、海外での販売が売上全体の10%を担っています。もちろん海外進出を考える企業様のフォローも可能であり、今後も海外展開の拠点として位置づけています。

重点製品の販売やサービス強化、人材育成で企業力アップを目指す

現在注力しているのは、まず重点製品の「直進くん」「クリスタルノンPF」「マルトップMLフィルム」の更なる販売強化です。当社製品の主材料に関わる原油価格の水準は、2004年と比較し3.3倍となっていますが、この上昇分を生産効率化で吸収する努力を重ねてきました。今後は、こ

れまで蓄積してきた生産ノウハウを基盤に、お客様が満足してご利用頂けるような高機能フィルムの製造販売を更に推進していく考えです。

この他、香港の販売会社を中心とした「アジア地域への更なる販売強化と国内企業と香港流通のマッチング」に加えて、「ワンストップサービスの一層の充実」、社員一人ひとりに経営の視点を持たせながらお客様への貢献度を認識させる「部門別採算制の導入による全員経営の実現」、スローガンでもある「現状不満足精神」の徹底による事業の発掘・成長等も注力点に揭げています。

また、やりがいのある職場づくりにウエイトを置いています。お客様のご指摘を全社で共有し対応するのは当然ですが、当社では「丸東Thank youイベント」を立ち上げ、お客様からの感謝の言葉や、社員から社員への感謝の言葉等も全社で共有す

ることにより、社員の士気向上を図っています。更に、偉人に学ぶ事を目的に有志が集まる勉強会「寺子屋」研修の拡充にも今後は努力を傾けていく予定です。また、これからの当社を担う新入社員には、身を以て「お客様第一主義」を学び取ってもらおうと、早朝運動として、コミュニケーションの基本である「挨拶」の実践に取り組ませています。

パッケージづくりの根底に流れる 社会とお客様への貢献という理念

当社の使命・理念は次のように定めています。

「当社の使命」

製品には、パッケージが必ずあります。お客様のパッケージに対するニーズを実現することを常に考え、包装の機能を高め続けることで、人類の豊かな生活に貢献する。

「当社の理念」

お客様第一主義。お客様の商品

が市場で消費者から選ばれる為に、我々はパッケージのデザイン、品質、機能、消費者の利便性を高め続け、商品価値の向上に寄与し、お客様の商品が市場でNo.1になる為のお手伝いをする事で、お客様の繁栄に貢献する。

従って今後の展望としては、当社の理念である「お客様第一主義」を更に推し進めていく予定です。その理念の遂行の為、当社では今期から「お客様貢献部」を立ち上げました。これは、お客様の

ご要望を一カ所に集約し、全社的にその課題に取り組むことを目的としています。その結果、全社の機能を活用したサービスによってどんなご要望に対しても「NO」と言わない丸東産業」を実現し、お客様と共に発展出来る企業を

目指します。もちろん常に当社の使命に立ち返り、使命に掲げる人類の豊かな生活に貢献していくことは当然の目標です。

企業像としては「お客様から求められ続ける企業」を目指して、持続的な成長企業でありたいと思っています。これは「社員が安心して働ける企業」であることにも繋がっており、どのような激動の時代にあつても安定性に富む企業として未来へ歩み続けていくと、今、決意を新たにしています。



▲梶島社長

◎インタビューを終えて

パッケージは、商品が消費者の手元に届く時のまさに“顔”です。御社は創業以来、様々な分野のパッケージや関連商品の製造販売により、顧客のニーズに応え続けてこられました。製品を手にとって見ると、その機能や利便性は、一朝一夕になしえるものではなく、製品開発にかかる大変な労苦は斟酌に難くありません。厳重な工程管理や検査体制が構築された工場の見学では、顧客ニーズを満たすことの出来る御社独自の製品が作り出される瞬間を拝見出来、大変感激致しました。

今後も、パッケージ製造を通して、顧客とともに御社がますます発展され、「人類の豊かな生活に貢献する」という使命を果たし続けていかれると確信しております。



福岡銀行
取締役頭取 谷 正明



トップ
に聞く！

「くつろぎのごちそう」を皆様へ
これからも美味しい
お菓子をつくり続ける



株式会社 お菓子の香梅
代表取締役社長

副島 健史氏

取引店／熊本ファミリー銀行 水前寺支店
福岡銀行 熊本営業部

創業の原点、創主の願い

当社は、長年熊本で「誉の陣太鼓」をはじめとする銘菓をつくり続けて参りました。創業者の副島梅太郎は、1911年（明治44年）生まれ。18年（大正7年）に台湾に渡り、12歳のときに同地の菓子屋に見習い奉公に出ます。そこで出会った店主（作家・北方謙三氏の曾祖父森平太郎氏）が、梅太郎の生涯の師匠となりました。46年（昭和21年）、梅太郎は終戦を機に台湾から引き上げ、熊本に移



▲阿蘇西原工場の前で(左から角谷工場長、副島会長、副島社長、林頭取、坂本支店長)

り住みました。復興が進む熊本で製菓業を志し、49年(昭和24年)に現在本社を構える熊本市白山(現・同市中央区)で店を開きます。当初は「副島菓子店」と呼ばれていましたが、創業の翌年には屋号を「香梅」としました。

梅太郎が永年語り続けていたのは、手づくりのお菓子の温かさを通して、世の平和と人々の心の安らぎを願う。お菓子は平和の使者です。お菓子づくりに注ぎ続けてきた情熱や想いは今日、「くつろぎのごちそう」という理念として受け継がれ、当社の原点となっています。

肥後五十四万石を創作、 業容も徐々に拡大

「香梅」としてスタートした50年(昭和25年)、「肥後五十四万石」が生まれます。これは上品な味わいのこし餡を求肥(ぎゅうひ、米粉を練りあげたもの)で包み、白いうす種で



▲菓子製造工程の説明風景

挟んだ和菓子で、当社の出世作であり、現在でも製造販売が続く銘菓となりました。54年（昭和29年）には全国菓子大博覧会で金賞を獲得する等、早くから数々の品評会で受賞を重ねて参りました。

また、意外に思われる方も多いのですが、当社は洋菓子の歴史も長いのです。創業時からシュークリームやエクレー等の洋菓子も製造し、55年（昭和30年）頃からはデコレーションケーキも製造しております。

これらの和洋菓子がお客様にご好評を頂き、徐々に業容を拡大していきました。店舗数も次第に増え、当時の菓子店としては珍しい配達用の営業車も導入する等、営業面にも力を注ぎました。

代表作「誉の陣太鼓」誕生 夏場の売り上げアップ キャンペーンも

58年（昭和33年）に、当社の看

板商品である「誉の陣太鼓」が誕生します。これは、小豆の中でも最高級と言われる大納言小豆をふんだんに使い、半練り羊羹風に寒天で流し固め、その中に求肥を入れた当社の創作銘菓です。も

ともと陣太鼓とは、戦の陣中において戦士の士気を高め、勝利へと導く為に打ち鳴らされたもの。熊本は江戸期から細川藩の気風を大切にする土地柄で、手柄を立て、栄誉を受け、光栄に思う気持ちがこのお菓子に込められており、その想いが現代でも受け継がれています。創作当初の陣太鼓はザラメを全体にまぶしたもので、一個一個が手づくり。日産はわずか70個程でした。現在は金色のフィルムを円形カップに成型した自社開発の密封包装（通称「紙缶詰方式」。特許製法）で、豊かな小豆の風味とみずみずしい美味しさを保つことが出来るようになりました。この陣太鼓も当社の人気商品となり、全国菓子大



▲氷柱キャンペーンの陣太鼓



▲和菓子一級技能士による実演



▲肥後五十四万石



▲嘗の陣太鼓



▲武者がえし

博覧会等で数々の賞を頂いております。このような流れの中でお菓子の販売が増加し、製造工場も手狭となったことから、67年（昭和42年）、現本社地に鉄筋3階建ての本社・工場を完成させました。ここで「嘗の陣太鼓」の量産体制を整えたことも、その後の当社の大きな業容拡大に繋がっております。

しかし和菓子は、どうしても夏場に売れ行きが落ちるという悩みがあります。陣太鼓も同様でした。そこで一つの秘策が生まれました。71年（昭和46年）に、繁華街のアーケード等で展開した「陣太鼓冷やして食べよう氷柱キャンペーン」です。氷柱に陣太鼓をいくつも埋め込み、道行く人にそれを掘り出してもらうという試みでしたが、これが大成功でした。氷の中の陣太鼓が街行く人々の涼味を誘って、大人も子供も氷を溶かそうと一生懸命。マスコミ等でも取り上げられ、「陣太鼓は冷やして食べると、美味しさもまた格別」と評判が立ったことで、夏場に和菓子が売れないという常識を覆したのです。

74年（昭和49年）には、陣太鼓製造ラインを2ラインに増設。陣太鼓の氷柱は今も熊本夏の風物詩として親しまれています。

自然環境に配慮した阿蘇西原工場、社員のための育児施設も完備

84年（昭和59年）、自然豊かな阿蘇山麓に阿蘇西原工場（熊本県阿蘇郡西原村）が完成しました。綺麗な空気と、日本屈指の名水である阿蘇の伏流水は、厳選した素材の風味を引き出し、美味しいお菓子の製造には最適な場所と言えます。広い敷地内の工場で、多くの職人が日々、嘗の陣太鼓をはじめとした様々な和菓子や洋菓子を製造しています。品質管理や衛生管理も徹底し、安心で安全な商品をお客様にお届け



▲関連会社で維持・管理を行う古今伝授の間



▲工場屋上に設置した太陽光発電パネルの視察風景



▲企業内保育施設「親互園」

出来るよう、今後も努力を重ねて参ります。

環境面にも配慮し、工場の屋上には太陽光発電パネルを設置。また工場から出る排水は専用の処理設備でろ過し、イワナやヤマメも生息出来る極めて良好なレベルにまで浄化しています。その他にも、敷地内には雨水浸透枳を設けております。こうした取り組みの一つひとつは、「当社のお菓子は、ひとえに自然の豊かな恵みによって作られるものであり、その感謝の気持ちを込めて、自然に返す」という精神に基づいています。

また当社は、子どもを持つ女性が多く働いていることもあり、仕事と子育てを両立させることが重要だと考え、阿蘇西原工場の敷地内に社員の子どもを預かる企業内保育施設「親互園」を併設しております。自然に囲まれた園のグラウンドは全面芝生で、その周囲に生い茂る木々の中には、お菓子に縁のある植物も植えてあります。

こうした環境の中で、子どもたちは元気にのびのびと育っています。

**伝統を守り、心をうつるおす
原点に立ち返り、**

これからも歩み続ける

当社は以前から、お菓子も一つのアート作品だと認識しておりました。4つの店舗に併設したギャラリースペース&カフェ。ここでは、絵画や音楽、造形等とお菓子とが巧みに融合する、一つの世界観を表現しようとしています。絵画を鑑賞したり音楽を聴いたりすることと同じように、お菓子にも人の心を和ませる力があります。様々なアートが融合する場を、お客様と共に分かち合いたいという想いから生まれたものです。

また、水前寺成趣園にある「古今伝授の間」(熊本県指定重要文化財)は、98年(平成10年)から当社が細川家の永青文庫より維持管理を委託されています。建

株式会社 お菓子の香梅

物の中から桃山式庭園を眺めながら、お抹茶とお菓子をお召し上がり頂けます(有料)。

このように、文化や芸術との融合、また四季の変化の中でお菓子によって得られる心豊かな暮らしを支えていくことが重要であり、それが当社の使命とも考えております。

「くつろぎの「ごちそう」という経営理念。たった九文字ではありますが、当社にとっかかりがえの言葉となっています。「くつろぎ」とは、一生懸命に働いた後に得られるホッとした時間の贈り物であり、「ごちそう」とは、決して高価なものを目指すのではなく、手間ひま掛けてつくられた、心の満足が得られる食べ物と言えます。そのような商品を、当社はこれからもつくり続けて参ります。現在、熊本県内に22名の和菓子1級技能士(国家資格)がおられますが、そのうちの8名が当社の製造スタッフとして働いており、更に、その中の1名は県

内で唯一の女性1級技能士です。和菓子技能士の指導員も3名在籍し、お菓子づくりの技術伝承や人材育成に日々努めております。

将来の展望について、何か特別なことを目指すつもりはありません。当社が熊本で商売をさせて頂いている意義を確認し、原点回帰すること、その一念です。不透明な時代だからこそ、一番必要なことではないでしょうか。

おかげ様で、看板商品の「肥後五十四万石」「誉の陣太鼓」は販売開始から半世紀を越え、誉の陣太鼓は通算5億個を超えました。パイ生地と餡を融合させた「武者がえし」も発売から30年以上経って、今なお高い人気を頂いております。これからも今まで以上に熊本にしっかりと根を下ろし、地域と共に歩みながら、創業者をはじめ、これまで勤めて頂いた多くの社員の想いや業績を忘れることなく、全社員一丸となって努力していく所存です。



▲阿蘇西原工場外観



▲副島社長

◎インタビューを終えて



熊本ファミリー銀行
取締役頭取 林 謙治

「肥後五十四万石」や「誉の陣太鼓」等、半世紀以上にわたり親しまれる銘菓を生み出し、今や熊本を代表する老舗の菓子屋としてご活躍されています。本日、副島社長様と会長様のお話をお伺いした中で、地域との共存を大切にされ、県重要文化財の維持管理に取り組まれている姿勢や、創業時の菓子づくりへのこだわりと情熱をひたむきに受け継いでおられる経営努力を伺い、これら御社のご尽力が、現代でも幅広い世代に愛され続けている理由なのだと実感致しました。今後も、変わらぬ美味しさを多くの皆様にお届け頂き、御社が更なる発展を遂げられることを大いに期待しております。



トップ
に聞く！

「より高く」「正直は最良の施策なり」
変わらぬ理念を守りながら、
次代の技術情報商社へと進化を目指す

株式会社 橋本商会
代表取締役社長
橋本 博文氏

取引店／親和銀行 長崎営業部
福岡銀行 長崎支店

140年の歴史は、
時代ごとのニーズに対応した
「企業変身」の歴史

当社は、中津藩士だった初代、
橋本雄造が明治維新を機に商人
を志し、新天地の長崎で1872
年（明治5年）に開店した「中津
屋橋本商店」において、洋鉄、洋
釘、船具、機械類等の輸入や古鉄
類の商いに乗り出したことに始ま
ります。初代はその後、幕末に武
器商人として活躍したトーマス・
グラバーからサルベージ技術を学



株式会社 橋本商会

んで、日本のサルベージ業のパイオニアとなり、大型沈没船の引き上げで大成功を収めました。また、長崎市議会議員、県議会議員、衆議院議員、貴族院議員としても活躍し、長崎商工会議所の設立にも尽力しました。

1897年（明治30年）には2代目の橋本辰二郎が社長に就任し、漁業や海運業にも進出。長崎商工会議所会頭や貴族院議員を長年務めました。台湾（中華民国）建国の父とされる孫文とも交遊があり、当社特別応接室には今でも同氏から頂戴した「博愛」の額が掲げてあります。

3代目の橋本行正は1921年（大正10年）、資本金50万円で株式会社橋本商会を設立し、当社体制の充実を図りました。

4代目橋本和太八は、昭和10年代に中国で本業とともに製菓業や飲食業等で莫大な富を築きましたが、敗戦とともに海外事業や海運業等ほとんどの事業が壊



▲孫文直筆の「博愛」の前で（左から小幡頭取、橋本社長）

滅し、資産も消失。長崎も原爆によつて焼け野原状態となりましたが、戦後大村海軍航空廠跡での古鉄回収や鋼材の取り扱い等により「鉄の橋本」と呼ばれ、復興に寄与しました。その後、造船不況により厳しい時期もありましたが、子会社を設立しレジャー産業や飲食業の新規事業によって、人員整理することなく危機を乗り切りました。

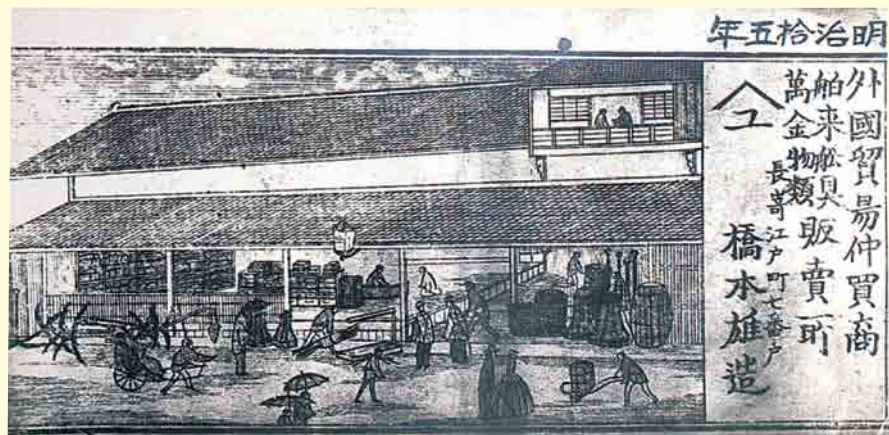
5代目の橋本寛は、時代の変遷を素早く察知して古鉄及び鋼材部門を廃止し、「技術情報商社」への変革を実現。産業用機械機器・電気機器の販売に加え、システム販売が出来る陣容を整えました。また、保有資産の有効活用を目的に不動産部門を設立して、安定した収益源を確立しました。

2006年(平成18年)には、6代目として橋本博文が社長に就任しました。近年ではIT関連事業の強化に加え、省エネ・新エネルギー

ギー分野の新商材販売や健康食品販売等の新規事業も立ち上げ、更なる躍進を目指しています。

基本理念と4代目社長訓

当社では基本理念、あるいは社員の行動指針を「excellsior」と「Honesty is the best policy」と定めています。excellsiorは、「現状に満足することなく改革向上し続ける」姿勢を、またHonesty is the best policyは、「誠実こそ商売の要」という創業より受け継いできた当社の商売理念を表現しています。これに加えて「Quick Response」、つまり「迅速に対応すること」を行動基準としています。常に「気配り・心配り」に留意しながら誠意を持って製品・情報・サービスをご提供するような心掛け、様々な



▲明治15年当時の中津屋橋本商店の様子



▲原爆被災前の本社



▲初代 橋本雄造



▲二代目 橋本辰二郎



▲三代目 橋本行正



▲四代目 橋本和太八



▲五代目 橋本寛
(現・代表取締役会長)

株式会社 橋本商会

ニーズに即応出来る「技術情報商社」でありたいと願っています。

当社では4代目 和太八が作った次のような社長訓があります。

一、人は虚言をいわぬ事

一、人に迷惑をかけぬ事

一、無理な利を望まぬ事

一、常によいことをするよう心がける事

一、人は努力家である事

全社員の机の上には葉書大のこの社長訓が置いてあり、一人一人が当社理念の徹底を図り、自らの行動に反映させるとともに、地域の模範的な社会人たるよう心掛けております。

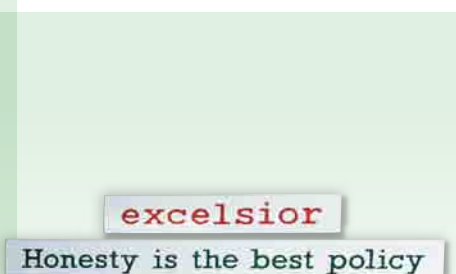
誠実を基とする企業風土の上に成り立つ「技術情報商社」

当社140年の歴史は、初代より「誠実」「信用第一」を心掛けた企業活動によって得られた足跡であり、この間に培われた信用は何ものにも代え難い財産と認

識をしております。そしてこの企業風土は今も当社に連綿と受け継がれており、これからも受け継いでいかなければならないものと思っています。

当社は「技術情報商社」を標榜しています。単に製品を仕入れて販売するだけではなく、一人一人の営業マンがメーカー研修や国家資格取得等により、技術的なスキルを身につけ、お客様のニーズを的確に掴み、最適なご提案を行うといった、より付加価値の高いサービスの提供が出来るよう人材育成に注力しています。

主要得意先として三菱重工業様、三菱電機様、九電工業様、官公庁様等、しっかりとした企業や組織とお取引させて頂いています。また仕入メーカーについても、三菱電機グループ様をはじめ、パナソニックグループ様、東芝関連企業様、トヨタ関連企業様、丸紅関連企業様等、日本を代表する企業も多く、そうした企業の代理店・



▲基本理念



▲4代目社長訓



▲現在の本社(橋本商会ビル)



▲倉庫見学風景



▲ISO14001認証



▲六代目 橋本博文(現・代表取締役社長)

販売店として信用あるお取引を
させて頂いていることも当社の強
みであると考えております。

新市場や新商材の開拓、 そして人材育成を次代の 企業発展の礎として

現在注力していることの一つ
に、「新しいものへの取り組み（新
市場・新商材の開拓）」がありま
す。今年で3年目となる、梅の種
を原料にした「サプリメント」を
はじめ「石けん」「化粧品」の企画
販売はその代表例です。

古来より健康増進食品として
愛用されてきた梅干しですが、そ
の種や種の中の「仁」には、食物纖
維やミネラル等の栄養素が豊富に
含まれています。当社のサプリメ
ント商品「梅の力源」は、厳選した
紀州みなべ産「南高梅」の梅干し
の種を原料として、長崎で天日干
して成分を凝縮させた後に、品

質マネジメントシステムの国際規

格であるISO9001を取得
した国内専門工場で、殻から仁ま
で丸ごと微粉末化後カプセル化
したもので、豊富な栄養を手軽に
補うことが出来る健康食品です。
同じく梅の種を原料に使用してい
る石けん「ながさき梅しゃぼん」、
化粧水「つるつる梅しずく」等と
ともに、長崎市油屋町の自社アン
テナショップや提携店舗での直販
と当社通販サイト「長崎ありがと
うございます」で取り扱っていま
す。今後も販売戦略の検討・改善
を行い、オリジナル商品としての
定着を図っていく考えです。

既存営業部門でも、顧客のニー
ズに合わせた「省エネ」「新エネ
ギー」に関連する新商材である太
陽光発電装置、インバーターや
LED照明等の各種製品を販売
しており、今後の注力すべき商材
と位置づけています。

また、商社における財産は「人」
であるという想いに立脚した「社
員教育を通じての人材育成」も



▲左から小幡頭取、橋本社長、八起長崎営業部長



▲梅の種の天日干し風景



▲梅の力源(カプセル)



▲梅の力源(詰め合わせセット)



▲ながさき梅しゃぼん



▲梅の力源(通販用アルミパック)

重点ポイントと考えております。社員のレベルアップを図るべく資格取得を推奨しており、多くの社員が施工管理分野の資格取得に挑戦しています。今では、1級電気工事施工管理技士が8名、1級土木施工管理技士が2名、1級管工事施工管理技士が1名、1級造園施工管理技士が1名おりますが、このような専門知識や技術を持った社員が営業を担当することで、得意先はもちろん仕入れメーカーからの信頼の獲得に繋がっています。経済のグローバル化にも対応する為、新入社員クラス、幹部社員クラス等週3クラスの「英語教育」も実施しています。TOEIC受験も勧めており、昨年の検定試験では社員の中から900点・800点以上が各1名ずつ認定されました。当社認定の資格取得に関しては、受験、専門学校での学習、教材購入等にかかる費用を当社で全額補助するとともに、資格取

得者には毎年恒例の社員表彰の際に金一封を贈呈する等してモチベーションを高めています。この他OJT、多様な社員教育やメーカーが開催している研修への参加、全国での展示会参加や海外視察等のプログラムを随時実施しています。

先人の姿勢を手本に これからも次代を見据えた イノベーションを実行

創業より様々な商品販売、サービスを業としてきた当社ですが、戦後は長崎を中心に九州圏内の企業や官公庁を主要な顧客として、主に産業用機械機器等の販売を行って参りました。しかしお取引先の事業環境の変化や人口減少等の影響は大きな懸念要因であり、既存事業だけでは企業運営の継続は困難と考えています。これからは既存のマーケット以外の市場や一般消費者をターゲットに

した市場も視野に事業展開を進める考えです。

梅をベースにした健康事業以外にも、グループ会社での古着リサイクルのFC加盟や駐車場関連事業、新商材の開発による市場開拓等、新規事業を模索しています。既存事業でも新しい商材、仕入先を探し、既存顧客への深耕を図るとともに、総務部に今年再編したITグループでの企画開発を推進していく他、安定した収益を継続している不動産事業も更に力を注いでいきたいと思っています。

「企業変革の歴史」とも換言できる140年の当社の軌跡。激動の時代と称される現代は、まさに企業変革を行う絶好のタイミングです。今日の当社もかつての諸先輩によるイノベーションに倣い、時代のニーズに合わせた新商材の開拓、新業態への変化に果敢に挑戦し、次世代への継承を行っていきたいと考えています。

◎インタビューを終えて

140年の歴史をお持ちの橋本商会様は、これまで数々の困難を各時代のニーズに即応して乗り越えられ、地域にそして社会に貢献してこられました。また、専門知識や技術の習得に向けた人材育成に注力しておられる様は、誠実と信用第一を常として企業活動に勤しんでこられた御社の事業に対する姿勢そのものの現れであると感嘆致しました。

御社の先達がそうであられたように、今後も時代のニーズを捉えるイノベーションを実現され、社会に求められ続ける企業たらんことを期待致しております。



親和銀行
取締役頭取 小幡 修